

科目名	子どもの理解と援助				担当	関 裕子		
形態	演習	単位数	1	開講時期	2年後期	実務経験	幼稚園・保育所勤務経験有	
必修	保育士:必修				ナパリング	Y2103	DPとの関連	2
授業概要	人間が育つとはどういうことか、保育・幼児教育の基本や特性を踏まえ、子どもを信頼し理解しようとする「まなざし」をもつ意義を学ぶ。また、子ども理解・実態に基づく多様な援助や方法について思考を深化させていく。さらに、ICT活用を含む保育現場の今日的課題を知り、保育構想の向上を目指す。							
到達目標 学習成果	①保育実践において、乳幼児一人一人の心身の発達を把握することの意義を理解する。 ②発達や学びの過程における、乳幼児の見方・捉え方の基本と保育者の援助について理解する。 ③保育現場における課題について、その社会的背景や子どもに及ぼす影響について理解し、自分の課題として捉え、最適解に向かう思考を深める。							
授業計画	回	内容						
	1	保育の今	ガイダンス:保育格差のリアルと原因					
	2	こどもを見るまなざし	子どもの「育つ力」を信頼する					
	3	こども理解の矛盾	子ども主体と保育者の意図					
	4	こども理解の視点(1)	個別的発達、社会文化的発達とは					
	5	こども理解の視点(2)	なぜ環境を通しての保育なのか					
	6	こども理解の視点(3)	遊びと生活のすべてが学び					
	7	こども理解の視点(4)	個と集団の関係性の理解					
	8	具体的方法(1)	観察と記録					
	9	具体的方法(2)	省察と評価					
	10	具体的方法(3)	チーム保育の意義・マネジメント・保育カンファレンス					
	11	具体的方法(4)	保護者との情報共有と連携・なにを育むための行事か					
	12	具体的方法(5)	不易(発達)と流行(ICTの活用)					
	13	具体的援助(1)	保育と療育 子どもの行為の意味を探る					
	14	具体的援助(2)	就学における育ちの連続性と相互理解					
15	今と未来をつなぐ	長期的視点からのこども理解と援助						
評価基準	①乳幼児一人一人の発達と学びを知る意義を理解しているか ②乳幼児の実態に応じて多様な援助・方法を思考する意義を理解しているか ③多様な価値観を視点に振り返りを行うことで、思考を深めようとしているか							
評価方法	各回のリアクションペーパー(70%)、最終レポート(30%)							
フィードバック方法	各回提出のリアクションペーパーに対して、翌週の授業内容で解説をする							
アクティブラーニング	①事前課題「今週のこども」と「こども理解と援助」内容を関連づける ②画像やロールプレイ、バーチャルな保育空間等で乳幼児との生活の思考を深め、保育技術を学ぶ							
教科書	『保育の原理と方法』太田光洋・関裕子,保育出版会,2018年							
参考書	適宜参考資料を配布する 『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 厚生労働省・文部科学省・内閣府 2017年							
履修条件	本授業に関する基礎的知識を有すること(保育原理、発達心理学 等)							
授業外学習	日頃から日常で出会う乳幼児と保護者の具体的な姿を観察すること							
オフィスアワー	適宜伝える							